



## 2020年 東京オリンピックに異議あり 放射能は消えていない 健康影響はある 隠してはいけない

### 【異様な東京オリンピック・キャンペーン】

テレビをつければ東京オリンピックが毎日目に飛び込んできますね。これでもかというほど。

私は選手の努力には感動します。しかし、今はどれだけ設備や用具に金をかけたかで記録が出たり、勝負が決まったりするのは疑問に思います。そして聖火リレーに象徴されますが、「福島復興」「原発事故は終わった」と見せる、意図的な構成を感じます。選手も観客も住民も被ばくさせられる危険を隠しています。

### 【放射能は消えたのか？】

京都・市民放射能測定所は、土壌や食品の測定を通じて、放射能が依然として存在しており、危険であることを示してきました。放射性セシウム137の半減期は30年もあります。除染されていない山林、溜まる一方の汚染水、汚染土を詰めたフレコンバックの山、どれも脅威です。

そしてオリンピック競技会場である福島市の『あづま球場』とその周辺の土壌と粉塵の放射性セシウムの値(2017年秋)は「78.1~6176ベクレル/kg」だったと世界的に著名な反原発活動家アーニー・ガンダーセン氏は報告しています。昨年の風水害によって、汚染土が居住地域に再び広がっている実態もあります。

核戦争防止国際医師団会議(IPPNW)ドイツ支部が「福島市での野球・ソフトボールのオリンピック競技を断念し、福島県の放射能汚染地域での聖火リレーを取り消してほしい」と署名運動をはじめると、世界的にも東京オリンピックがもつ危険性を問う声が広がってきています。

### 【放射能による健康影響を明らかにした2019年】

昨年は、測定所開設7周年のつどいと学習会などを通して、放射能がもたらす被害、とりわけ低線量被ばくによる健康影響を明らかにしました。ぜひ第二号パンフ『被ばくは低線量でも危険』をお読みいただき、活用していただきたいと考えます。

### 【被ばく隠しとの闘いへ】

今年2020年は、測定所としても存在意義が問われる正念場の年になると考えています。ICRP勧告の改悪や汚染水の海洋放出が狙われています。帰還困難区域も解除が進められています。市民による市民のための測定所であるからこそ、警鐘を鳴らし続けたいと思います。

## <2020年放射能による健康被害をめぐる争点>

### 問題①『ICRP勧告の改定問題について』

(2019年9月16日緊急学習会を開催)

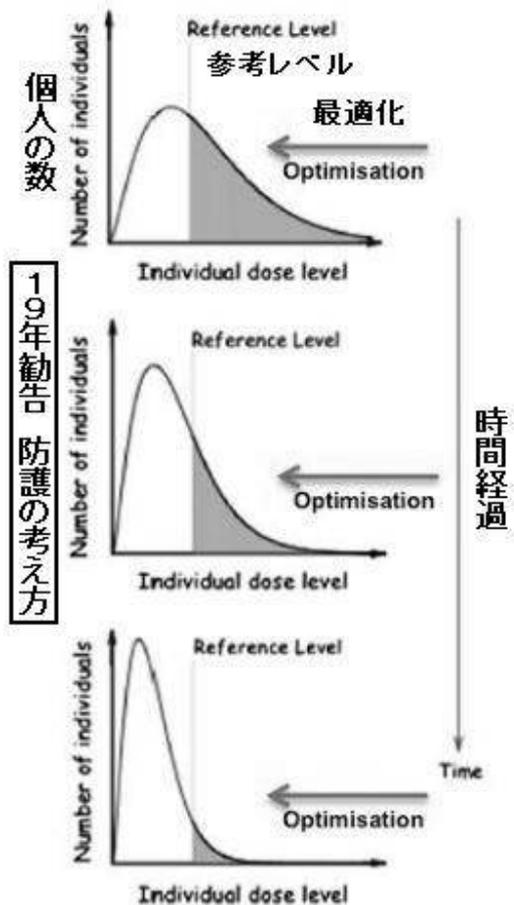
ICRP(国際放射線防護委員会)は、「大規模原子力事故における人と環境の放射線防護」勧告を改定しようとしています。

京都測定所は昨年9月緊急学習会を開催し、パブリックコメントに意見を出すことをよびかけました。(2019年10月25日まで受付。提出済。)

この改定の最大の問題は、右図のように、放射性物質が半減期をもち時間と共に減衰することを元に、最初は線量が高くても、時間が経てば減るのだから、防護しなければならない基準値は、今までより高くても妥当であり、参考値でよいと描いていることです。

これは、ICRPの1990年勧告「公衆の被ばく限度を年1ミリシーベルト」を否定していくものになります。2007年勧告で原発事故の緊急時に被曝線量限度を緩和する考え方(緊急時の参考レベル:20~100ミリシーベルトなど)が導入されましたが、それはまだ段階的でも本来の1ミリシーベルト基準に戻さなければならないとします。それが今回は、1ミリシーベルトより高い被ばくが続いてもかまわないということになっていきます。

もはや「防護」の名に値しない改悪です。



### 問題②『福島甲状腺がんは被曝による発症か?』

(2019年12月1日 市民と科学者の共同で講演会)

「甲状腺がんと放射線被ばくの間に関連は認められない」とするまとめを、福島県県民健康調査甲状腺検査評価部会が出しました。それを検証し、批判する講演会を開催しました。

山本英彦さん(小児科医・医療問題研究会)は講演にて、2019年9月に国際的医学雑誌メディスンに掲載された論文「福島原発事故後の甲状腺がん検出率と外部被ばく線量率との関係」を紹介し、福島県59市町村における甲状腺がんの検出率と放射線量率は統計的に有意な用量反応関係(被曝が多ければがんが増える)を示したことを報告されました。

そして、宗川吉汪(そうかわよしひろ)さん(日本科学者会議京都支部)が、甲状腺評価部会のまとめに反論し是正を求める要請書を出していくことを訴えられました。



# 問題③『東京五輪がもたらす危険』

(2020年2月11日シンポジウムを開催)

2月22日に当測定所が測った『東京日比谷公園の落ち葉と土』からは、100ベクレルを超える放射性セシウムが検出されました。(下図参照)やはり東京の放射能汚染は継続しており、警戒が必要です。

その中で、2月11日に『東京オリンピックに異議あり！「東京五輪がもたらす危険」出版記念シンポジウム』を開催し、30数名の方に参加をしていただきました。

本を出版されたの渡辺悦司さん(市民と科学者の内部被曝研究会会員)に、『東京オリンピックでの被ばくの危険性を警告し、開催に反対する！』講演をしていただき、各執筆者によるシンポジウムを行いました。

トリチウムの海洋放出に反対してこられた山田耕作さん(京都大学名誉教授)、被曝による健康被害を否定する国連科学委員会(UNSCEAR)報告を批判されている藤岡毅さん(大阪経済法科大学客員教授・同志社大学講師)、避難者の下澤陽子さん(東京から避難)、福島敦子さん(福島から避難)などから発言をしていただきました。

あらためて、原発事故を消し去るためとしか思えない東京五輪の在り方に疑問がわきました。(S)

## 放射能測定結果

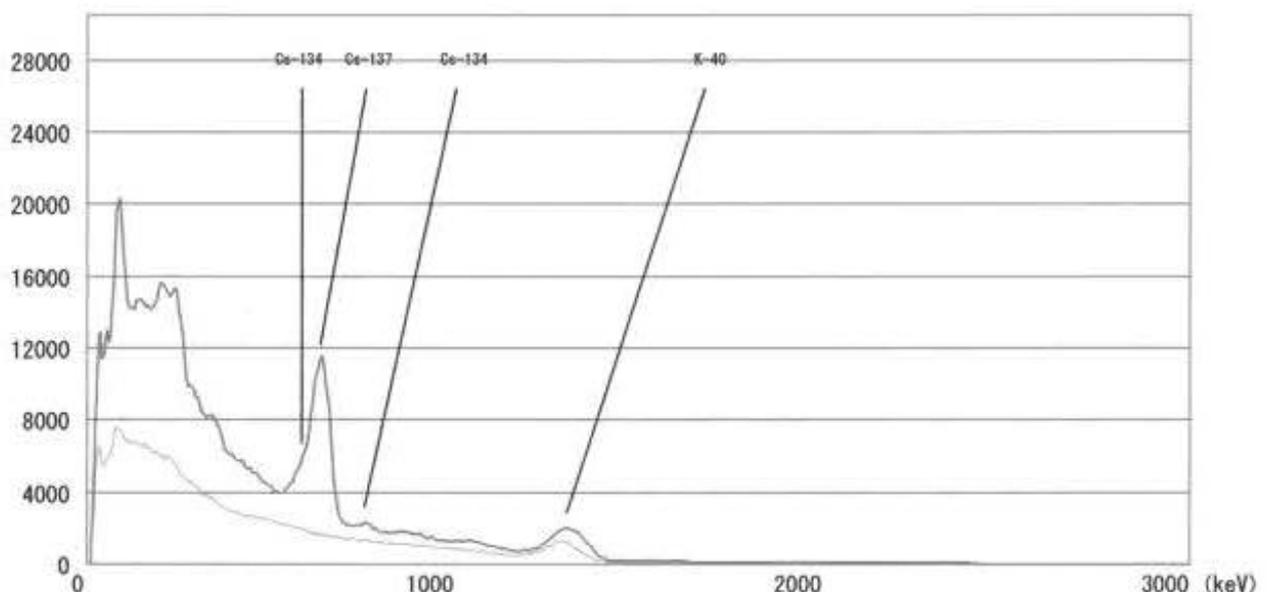
印刷日時：2020/02/25 16:55:58

測定場所	丹波橋測定室	測定者	佐藤和利
測定番号	T200222-03	測定機器	AT1320A(S/N:20680)
測定日時	2020年02月22日 23時13分57秒	測定時間	63000 秒
測定容器	Marinelli, 1l	試料重量	600 g
分析核種	2Cs+K	信頼水準	0.95
試料情報	東京日比谷公園の落ち葉と土		
セシウム合計	137 ± 23.3 Bq/kg		

判定	核種	放射能濃度	絶対誤差	統計誤差	検出下限値	ピーク検出
検出	Cs-137	117 Bq/kg	±23 Bq/kg	1.0%	1.29 Bq/kg	P
検出	Cs-134	19.5 Bq/kg	±3.9 Bq/kg	4.4%	1.19 Bq/kg	P
検出	K-40	348 Bq/kg	±70 Bq/kg	3.1%	15.2 Bq/kg	P

[判定条件] 検出(検出下限値以上)

[ピーク検出] P:ピーク検出 M:同一ピークに複数核種が存在 [ピーク検出条件] 検出ピーク 統計的 $\geq 1\sigma$



## 測定結果からよくある質問『安全な食材や産地の選び方（おじゃこ編）』

放射能測定をしていると、安全な食材の選び方や放射性物質の危険性について質問を受けることがよくあります。

自然界にも放射性物質は存在しますが、天然・人工に関わらず放射線は生命に影響を与えるので、「人工的に排出された余分な放射線は避けた方が良い」とお答えしています。

そして、定期的に「ちりめんじゃこ」や「だしじゃこ」の測定依頼を受けます。

これらの検体は、それ自体が軽量であることや、天然核種を含んでいる事が多いことから、京都測定所の測定機の性能上「放射性のセシウムを検出した」という間違っただ測定結果を出すことが多々あります。

その様な時は、長時間測定したり、何度か繰り返し測定したりします

しかし、それでも明確な結果が得られない時もあります。

その場合は、京都測定所の測定機より精密に測れる「ゲルマニウム半導体検出器」での測定を他の測定所に依頼して、納得のいく結果を得られる様にしています。

現在のところ、西日本産の”ちりめんじゃこ”や”だしじゃこ”からの検出例は、ありがたいことに無いです。

汚染水(処理水?)の海洋放出の話もありますが、大事な海を守る事、測定を続けて監視の目を絶やさないことが市民放射能測定所の役割と思います。

安全な魚の産地については、「絶対にここは安全」というのはありませんが、これまでの京都測定所の測定結果や他の測定室の測定結果など、データ蓄積があります。ぜひ、京都・市民放射能測定所のホームページの測定結果を見てください。

また、測定依頼では無くてもぜひ測定所に来てください。相談にも乗りますし、測定のやりかたなどを見ていただきたいと思います。(K)

## 会員のみなさまへのお願い

京都測定所をいつもご支援いただき、スタッフ一同感謝しております。

しかし、今後も引き続き測定所の運営を続けていけるかどうかは、現状のままでは大変厳しく、みなさまからの会費と測定依頼に頼るしかありません。

会員の継続（年会費納入）を、心からお願い申し上げます。

なお、右記の口座に年会費を振り込んでいただいた方には、後日新しい会員証をお送りいたします。よろしく願いいたします。

◇年会費（会員になった日から1年間）

正会員 4千円

サポート会員 2千円

◇以下の口座に振込んでください。

・郵便振替口座

00990-8-147255 京都市民測定所

・ゆうちょ銀行

14440-6770961 京都市民測定所

（他銀行からの場合）

店名 四四八 店番 448

普通預金 0677096 京都市民測定所



京都・市民放射能測定所 事務局

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町 55-1

コーポ桃山 105 号部屋

TEL/FAX 075-622-9870

E-mail : shimin\_sokutei@yahoo.co.jp

<http://nukecheck.namaste.jp/> <http://crmskyoto.exblog.jp/>